

# 市町村地震防災対策 アクションプログラムの 必要性

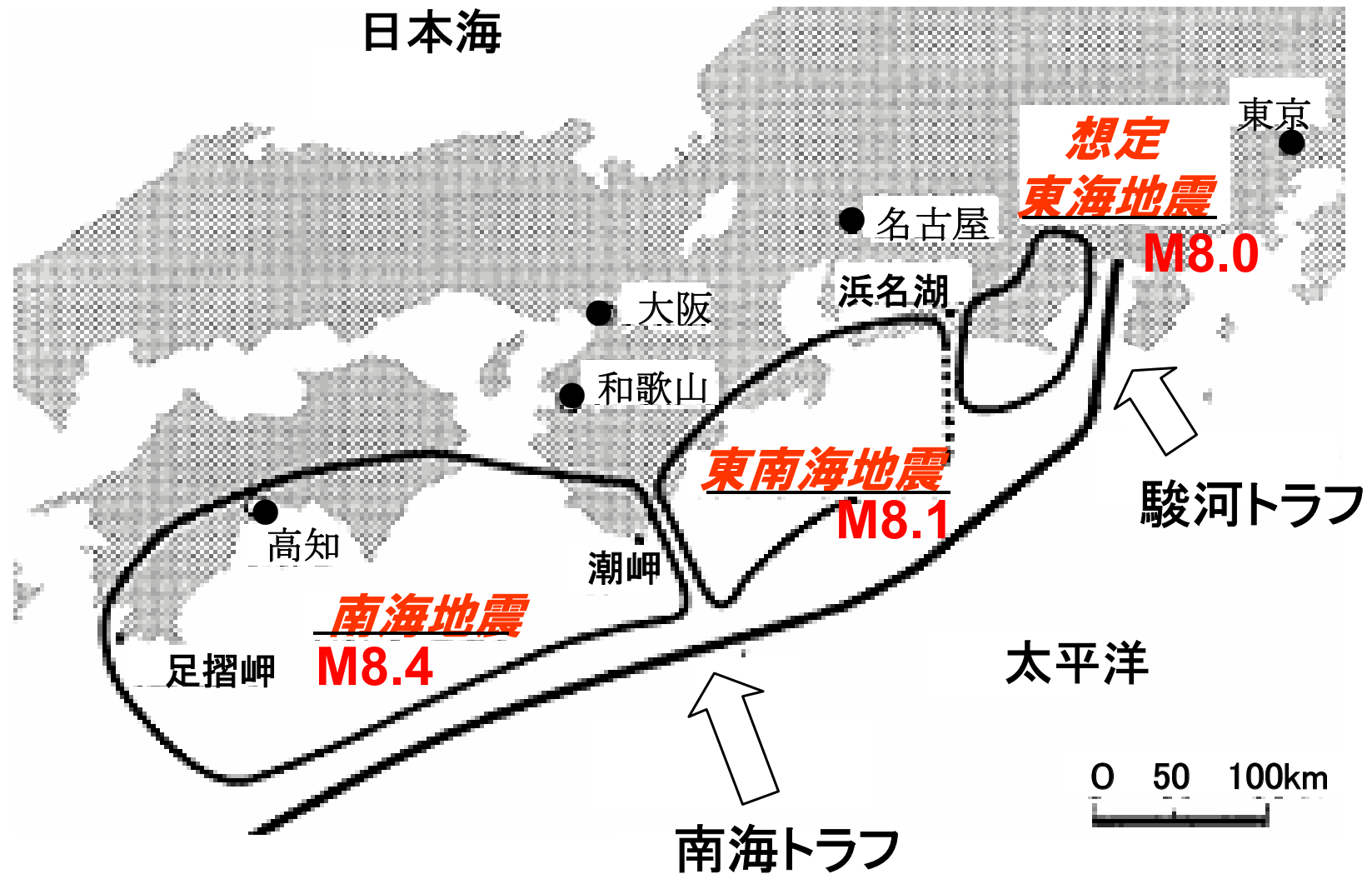
京都大学防災研究所

林 春男

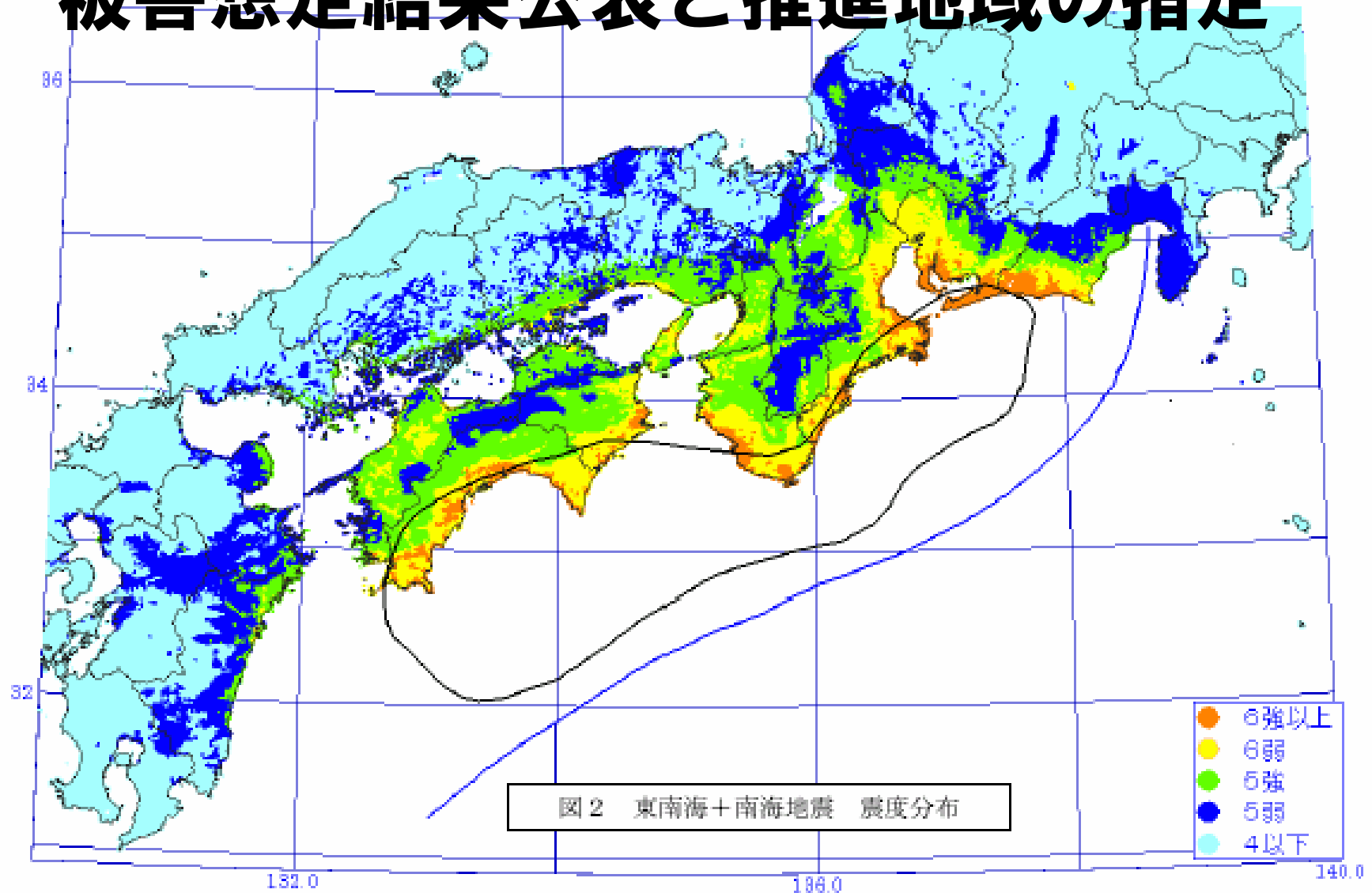
# 21世紀前半に発生が確実視される 東海・東南海・南海地震が起きたら

- **奈良県下の市町村には全市的な被害が出る**
  - 激甚な被害集中地域はないかも知れないが、
  - 市内全域に中程度の被害が拡がる
- **県下市町村は全庁体制をとらざるをえない**
  - **首長以下、陣頭体制でのぞむ**
    - 自分の担当ではないといえる人は誰もいない
    - 応急対策だけすれば済むのか
  - **これを契機として、県下の市町村をよりよくできるか**
    - 新しい「まちづくり」を実現する契機とできるか
    - 事前に議論がなければ、これまでの延長にしかない

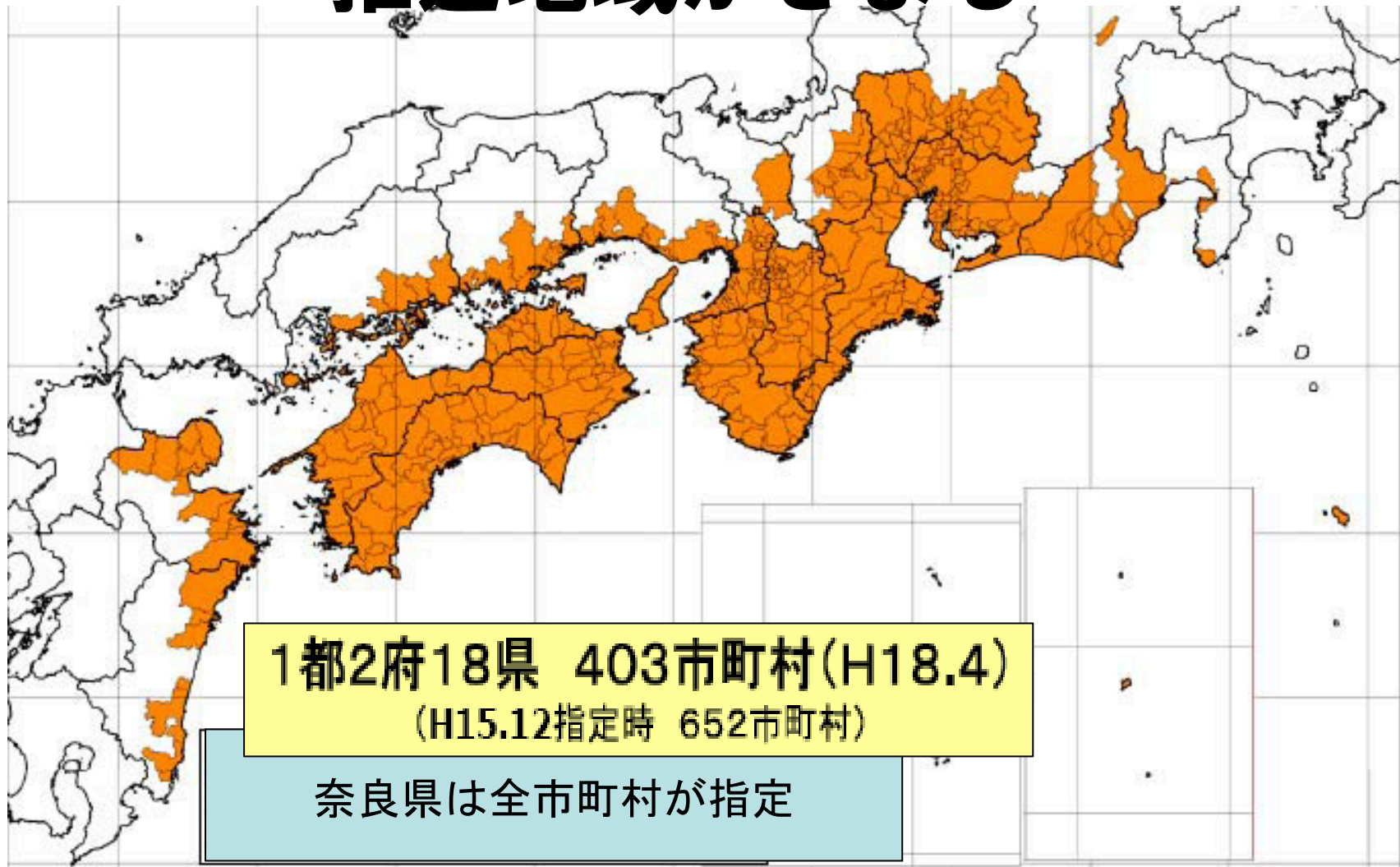
# 21世紀前半に3つの地震が起きる



# 2003年には国（中央防災会議）の 被害想定結果公表と推進地域の指定



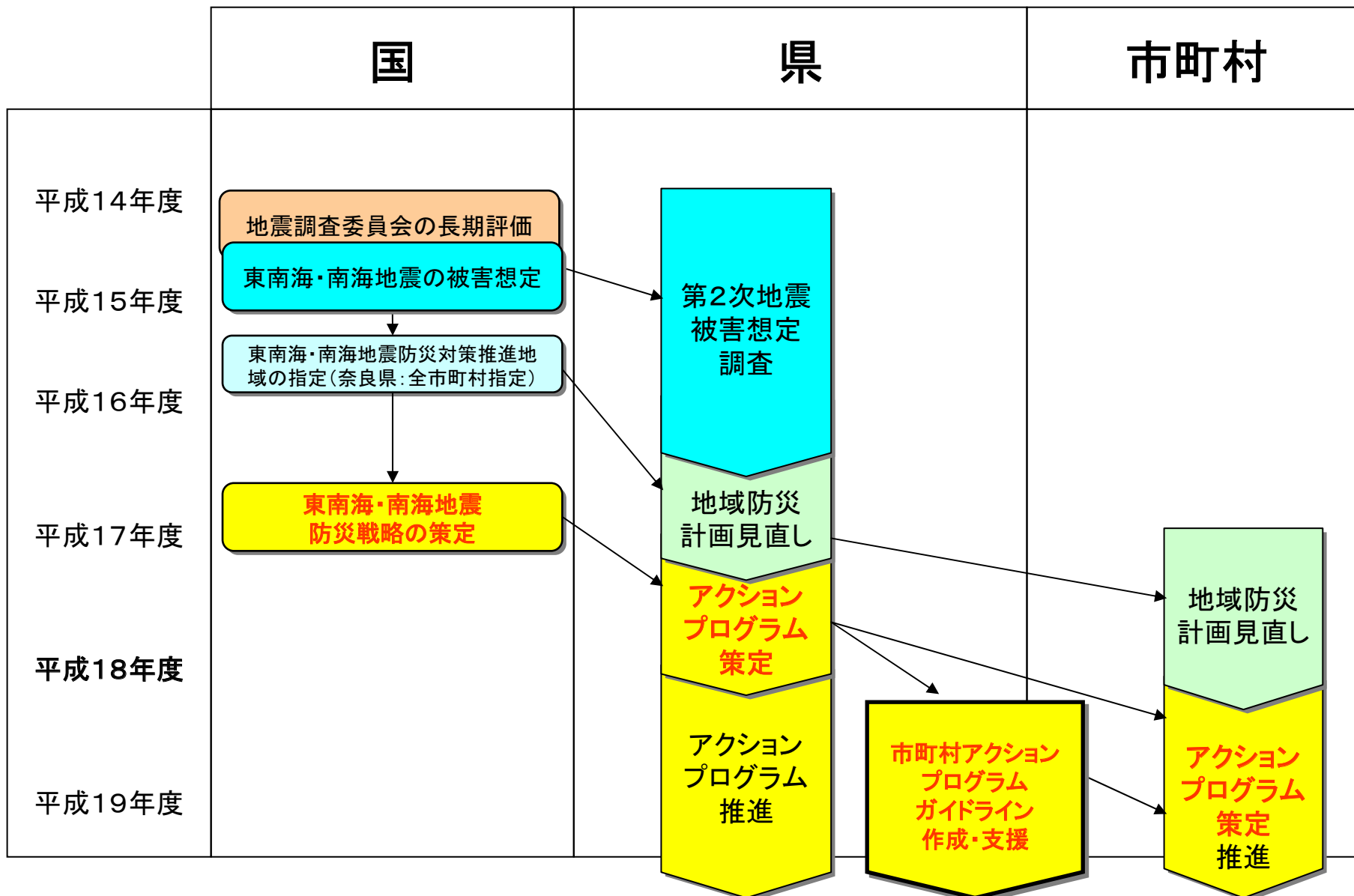
# 東南海・南海地震防災対策 推進地域がきまる



いよいよ  
次の東海・南海地震に向けてた  
備えの本格化が  
求められる時期になった

- 何に備えればいいのか
- 何を備えればいいのか
- いつまでに備えるのか

# 奈良県の地震防災対策の進め方



平成14～16年度

## 第2次奈良県地震被害想定調査 報告書



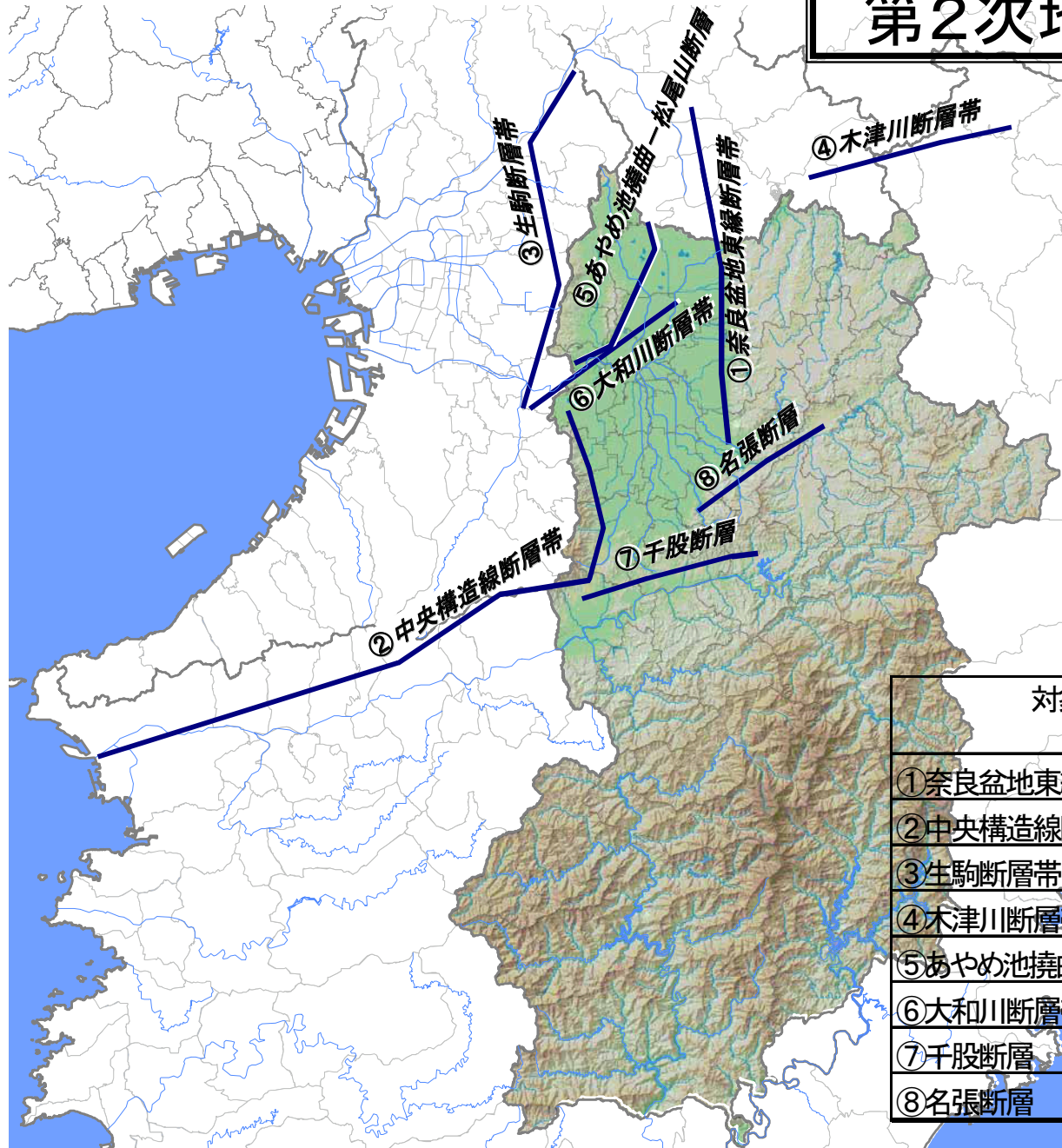
平成16年10月公表

奈良県



# 第2次地震被害想定調査

## 内陸型地震 (8断層)

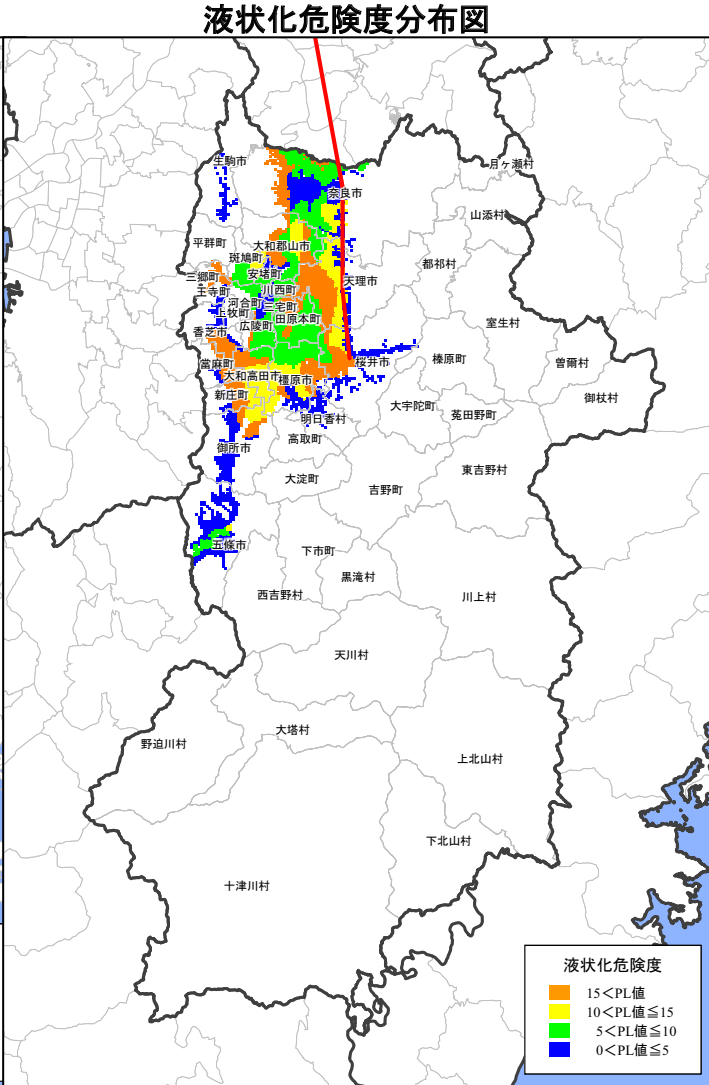
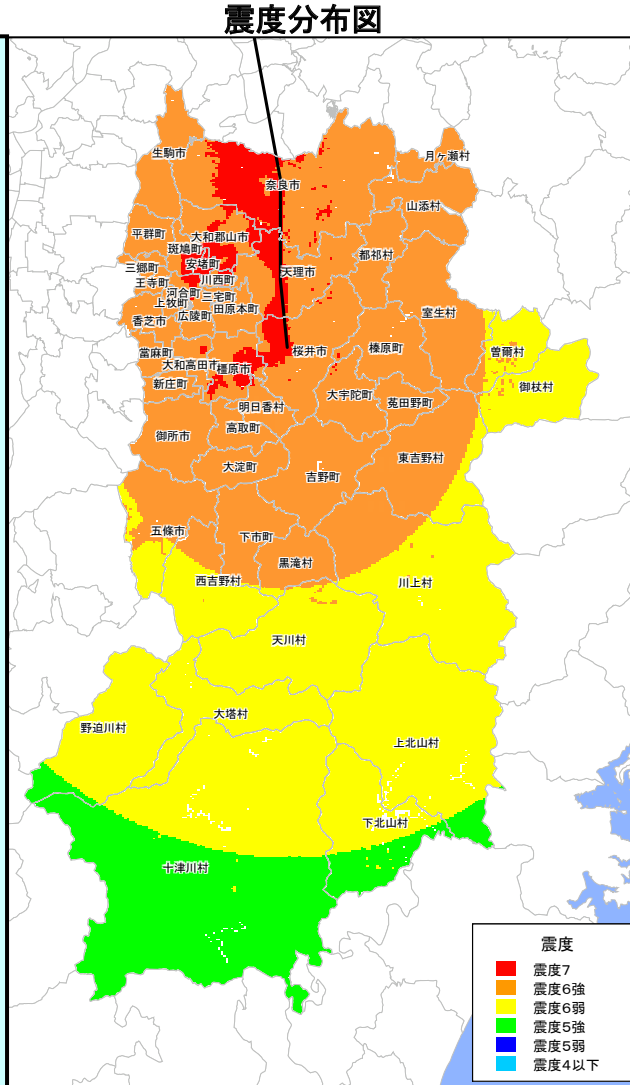


| 対象地震           | 断層長さ<br>(km) | 想定<br>マグニチュード |
|----------------|--------------|---------------|
| ① 奈良盆地東縁断層帯    | 35           | 7.5           |
| ② 中央構造線断層帯     | 74           | 8.0           |
| ③ 生駒断層帯        | 38           | 7.5           |
| ④ 木津川断層帯       | 31           | 7.3           |
| ⑤ あやめ池撓曲-松尾山断層 | 20           | 7.0           |
| ⑥ 大和川断層帯       | 22           | 7.1           |
| ⑦ 千股断層         | 22           | 7.1           |
| ⑧ 名張断層         | 18           | 6.9           |

# 第2次地震被害想定調査

## 奈良盆地東縁断層帯

- 断層の長さ  
35 km
- マグニチュード  
7.5
- 死者  
5,153人
- 負傷者  
19,045人
- 住家全壊  
119,535棟
- 住家半壊  
83,442棟
- 建物火災 (冬の夕方6時)  
1,199件
- 避難者 (1週間後)  
435,074人
- 断水世帯 (直後)  
433,526世帯
- 停電世帯 (直後)  
486,436世帯
- 都市ガス供給支障  
世帯 (直後)  
256,903世帯



※ PL値：液状化の危険度を評価する指標で、PL値が大きいほど液状化の危険度が大きい。